



未来に羽ばたこう！

平成29年7月11日発行



1学期を振り返ろう ～次へつなげるために～

まもなく夏本番。子どもたちは、それぞれの学年としての自覚をもち、自分の役割への責任を身につけるようになってきました。夏休みを間近に控えたこの時期に、今までの自分自身の行動を振り返ることは、精神的発達を助長することにつながります。気のゆるみをひきしめ、1学期のまとめをしていきましょう。

さて7月は、日本の伝統芸能である能の完成者、世阿弥が生まれた月です。「初心忘るべからず」は、この世阿弥が『花鏡』の中で述べた言葉です。よく、「初めの志を忘れずがんばれ」といった意味に理解されますが、本当の意味は「初心、つまり、自分の未熟さを忘れるな」という慢心やおごりを戒めた言葉です。各学年、地域学習や文化祭へ向けての取組も本格化する中でそれぞれの力を発揮しています。子どもたちは、実に良いアイデアを出します。「初心忘るべからず」の気持ちを心にとめながら、実践面では、活用、応用する力を伸ばしていきましょう。

残り少ない1学期。最後まで努力し、学習したことは1学期中にしっかり習得できるように頑張らしましょう。家庭でも努力する姿には、ぜひ励ましの声をかけていただきたいと思います。

ぞうきん贈呈式

7月3日(月)

毎年、7月の上旬になると、特別養護老人ホーム「四季の里」のみなさんが、心を込めてつくってくださったぞうきんを、足守中の生徒に送ってくださいます。『誠実と思いやり』という言葉は、「四季の里」の理念だそうです。温かいおもてなしの心は、きっと若い足守中の中学生のみなさんにも毎年伝わっていることと思います。中学生のみなさんは、いただいたぞうきんで、毎日心をこめて清掃活動に取り組んでいきましょう。

感謝の気持ちを、校舎を美しく、大切にしてください。



平成29年度地区懇談会(蛍明学区)

7月7日(金)

蛍明小学校区の青少年健全育成地域教育懇談会が、7月7日、七夕の日に、あしもり学園交流ホールで開催されました。今年度は、岡山理科大学教育学部初等教育科教授の小川孝司先生を講師にお招きし、「子どもの成長を育む学校と家庭のコラボレーション」という演題で講演をしていただきました。子どもたちが成長していく中で、学校で「当たり前」を丁寧に教えることの大切さ、そして、家庭では、生活の自立と情緒の安定を実現することが重要であるということをお話いただきました。この両者がコラボすることで、子どもたちは、見守ってくれているという心の安定につながり、思い切って頑張ることができる土壌が形成されるのではないのでしょうか。



夏休みを迎える準備をしましょう



有意義な夏休みとなるように、この時期、何をすればよいのか考えてみましょう。

<学習面>

1学期に学習したことは1学期のうちをしっかり身につけましょう。

特に、積み重ねが必要な教科については、毎日の家庭学習の継続が必要です。「継続は力なり」です。

<生活面>

1学期は、「当たり前前」のことが「当たり前」にできることに取り組む段階です。気持ちよいあいさつ、ありがとうという一言、互いを思いやる言動、自分の仕事をやり遂げる姿勢、等々....。

ご家庭でも、本人に責任ある役割を与え、将来、社会に出たときに身につけておくべきことが自然にできるよう習慣づけていただきたいと思います。中学校時代は、本人の意識を高めるチャンスです。

夏休みも普段同様、1日の生活のリズムを維持していきましょう。早寝・早起き・朝ごはんは大切な3本柱です。また、何かをしながらの学習は、せっかく時間を使っても、定着がよくありません。集中して物事に取り組む姿勢を大事にしていきましょう。

☆ 藤井君の活躍から思うこと ～「伸びる子の条件」～

巷では今や時の人となった藤井聡太4段。足守中のみなさんと同じ中学生です。その天才と呼ばれる頭脳は、どのようにつくられたのでしょうか。マスメディアは、騒然となって彼の周辺取材をしています。私は、メディアから彼を守ってあげないと、という気になり、勝手に心配しています。

いろいろな情報を集約してみると、飛び抜けたお金持ちの家に生まれたとか、特に教育にお金をかけたとかいう話はありません。父はサラリーマン、母は専業主婦、4歳年上の兄、家族誰もが将棋の世界とは無縁。ビックリですね。ごく普通の一家です。藤井君がインタビューで「母親と一緒に奨励会が開かれる関西将棋会館に行く2人分の新幹線代がもったいない」と答えた記事が載っていました。お母さんは、「月に2回、名古屋から新幹線に乗って大阪の関西将棋連盟に通っていました。朝4時半に起床。朝食の準備をして、5時に聡太に食べさせて。8時には将棋会館に到着するように、5時半には自宅を出発していました。」そして、奨励会で6連敗した時(こんなことがあったんですね!)に、「会館の中では悔しさを胸の内におさめていたんだと思いますが、私と一緒に会館を出たときに、もう大泣き。自信を失っていたんだと思います。でも、私は、聡太の気が済むまで黙って見守るしかありません。一緒に悲しんでいるつもりなんです、聡太は『お母さん、ボクが負けると機嫌悪いよね』って言うんですよ。」

藤井君のことを思いながら、人が伸びていくには何が大切なのだろうかと、ふと考えていたところ、たまたま読んだ教育雑誌にこんなことが書かれていました。実は、伸びる子には、「伸びる子の条件」というものがあるそうです。そこに書かれていたのは、次の4つです。まずは、「続けること」ができるということ。粘り強さです。これはわかるような気がします。2つ目は「ていねいさ」。鉛筆の削り方ひとつ、消しゴムの減り方ひとつ、紙の折り方ひとつ見ても、学力と大いに関係あるのだそうです。ていねいに取り組む姿勢が大切なのかもしれません。3つ目は、「まじめである」ということです。「まじめ」をどうとらえるかにもよりますが、例えば、毎日自分の机に向かって座っていますか。毎日座る時間や習慣があるということは、それだけで大きな力になるそうです。難しいことですが、完全にその習慣をつけたいものです。最後に4つ目ですが、「挑戦する」ということです。まずやってみるというタイプです。このような子どもは生命力が強く、友人も多かったです。とにかく挑戦することで成功感と挫折感の両方を味わって、たくましくなっていくのかもしれない。

特別に裕福な家庭、教育環境があったわけではない藤井家。でも、「続けること」「ていねいさ」「まじめさ」「挑戦する姿勢」の4つの条件と藤井君がこれまで生きてきた姿が私の中では重なってしまいました。ちょっとした接し方、物の言い方、考え方を変えることで、藤井君のような飛躍を誰もが起こす可能性はあるのかもしれない。